

JRC 部活動報告

JRC 部部長 3年 武澤里穂

JRC 部とは「junior red cross」青少年赤十字の理念「気づき・考え・行動する」を実践するための活動を行う部活動です。実際にどんなことをしているのか、昨年1年間の活動のほんの一部を紹介します。

1 ジェンダー問題

各国の男女格差、ジェンダーギャップで日本は144カ国中111位です。つまり男女格差が大きいということです。そこで私たちは、福岡県男女共同参画センター館長、松田美幸先生においでいただき、世界のジェンダー事情と社会と女性の問題などをお話していただきました。さらに、夢を実現するためにはどうしたらよいかを語り合いました。



2 障害者問題

「きらり」とは障がいのある人が得意なことを仕事にし、技能を身に付け、社会復帰の支援をする作業所です。私たちは、きらりが作っている製品の物作り体験を企画したり、定期的で開催される“きらりマルシェ”の手伝いをしています。

3 国際交流①

韓国人中高生との交流です。日本を訪れた韓国人留学生と熊本城へ行ったり、お好み焼きを食べたりしました。また、お互いの国のお菓子をもち寄り、食べ比べてみました。同じようなものでも国が違うと微妙に味が違い、とても面白かったです。



3 国際交流②

インターナショナルパーティーです。八代には1500人以上の外国人の方々が住んでいます。普段接する機会の少ない彼らと、それぞれの国の文化の違いについて話し合ったり（正月とか学校など）、各国の音楽を披露したりして大いに盛り上がりました。





3 国際交流③

グローバルジュニアドリーム事業についてです。これは、熊本と姉妹都市である台湾の高雄市に、熊本県内の小中学生25人の高校生リーダー5人が、青少年大使館として派遣される事業です。昨年度、私は高校生リーダーとして参加することができ、外国から見た熊本をいろいろな視点で考える機会になりました。

3 国際交流④

ボランティアワークキャンプについてです。熊本県内外の高校生と外国人高校生120名が、環境、国際交流、子どもの権利、食、国際協力・医療保険、多文化共生など6つのテーマに分かれて話し合いました。

私は“多文化共生”に参加し、他の高校生や外国人の意見を聞くことができ、知識の幅が広がりました。



4 フェアトレード

チョコレートを初めとする数多くのフェアトレード商品を文化祭で販売しました。また、体育館のステージでは、フェアトレードの服を着た生徒や先生によるファッションショーを開催。とても盛り上がりました。

このように、文化祭などで紹介することによって一人でも多くの方がフェアトレードを知り、身近に感じてもらう機会になればいいと思います。

5 熊本地震

KEEP との話し合いです。KEEP というのは、熊本地震被災体験をインターネットなどで世界に発信する熊本大学の留学生グループです。

熊本地震を体験した彼らの話を聞き、このような事態の時、どうやったら助け合えるか、どうすることが必要かなどを具体的に話し合いました。





6 地域復興①

熊本地震がおき、これからの熊本の復興をどうしていくべきか、高校生としての思いを熊本市の大西市長に伝えました。さらに八代市長を本校にお招きして、八代市をもっと安心安全な町にするためにはどうすればいいか、また、クルーズ船の来航する八代市をグローバルにアピールする方法などを提案しました。

6 地域復興②

八代市長に提案したなかの1つである、クルーズ船で来港する外国人の方々にもっと八代を楽しんでもらおうと、DMO 八代、NAINAI と協力して、グルメ雑誌の作成を行いました。



ここで紹介した内容は私たち JRC 部が昨年一年間を通してやってきたことのほんの一部に過ぎません。そしてほぼ全ての活動が、今、社会で起きていることに感心を持ち、私たちに何ができるかを考え、それをもとに企画したものです。しかしその企画を実現するためにはいくつもの問題が出てきます。それを JRC の仲間と協力し、先生方や地域の方々の手を借りながら一つ一つ解決していきます。

今までのボランティアには、「誰かのために自分を犠牲にする」という「奉仕」のイメージがありました。しかし、このような活動を通して実感するのは、それが「人間として豊かな生活を送るためのものである」ということです。言い換えればボランティアは究極のところ「人との交流」です。だからこそ自分と違う価値観を多く学ぶことが出来ます。

私たちは、ボランティア活動を通して得た、学ぶ喜びや参加する楽しみをもっと多くの人たちに経験してもらえよう、これからも活動を続けていきます。